

11月25日正午必着

明石春浦先生書

投宿古寺裏終夜倚窓清
寒夢難結坐待五更鐘

投宿古寺裡 終夜倚虛窗
清寒夢難結 坐待五更鐘

(良寛)

古いお寺に 宿かりて 夜すがらひとり 窓による。
寒さで夢も 結ばれず 坐禅して待つ 明けの鐘。

明石幸子書

こがらしの音に時雨を聞きわかれ紅葉にぬるる袂とぞ見る
秋とぞ見る

こがらしの音に時雨を聞きわかれ紅葉にぬるる袂とぞ見る(新古・具平親王)



寒空五老樹。斜月九江雲。鐘磬知何處。蒼蒼樹裏聞。(徐凝)

一人廬山に宿した時のことを詠んだものである。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

清吟夜煮茶 (郭昇)

清吟して夜茶を煮る

夜には静かに詩を吟じつつ茶をたてる。

北風吹白雲 萬里渡河汾 (蘇頌)

北風白雲を吹き 万里河汾を渡る
心緒揺落に逢い 秋声聞くべからず

旅路の秋は、吹きたる風にも心いたみ、
聞くにたえない。

西郊蘭若 (羊士諤)

西郊の蘭若

羊士諤

雲天宜北戸 塔廟似西方

雲天 北戸に宜しく 塔廟 西方に似たり

林下僧無事 江清日正長

林下 僧 事無く 江清くして 日正に長し

石泉盈掬冷 山實滿枝香

石泉 掬に盈ちて冷たく 山実 枝に満ちて香し

寂寞傳心印 無言亦已忘

寂寞として 心印を伝う 無言 亦た已に忘る

わが庭に松葉牡丹の赤莖のうつろふころは 時雨降るなり (島木赤彦)

半紙部規定課題A

11月25日正午必着

舊山歸路
賒

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

11月25日正午必着

行書

舊山歸路
餘

隸書

舊山歸路
餘

明石春浦先生書

草書

舊山歸路
餘

行草書

舊山歸路
餘

美玉を抱きながら（才能を有しながら）、この京城繁華の地で涙にくれる 故郷の山々は、帰り行く道程があまりに遠い
静けさは禅僧の房に傍うてたどよい 奥深さは庶民の家のよう
林に日は暮れて、鳥たちはねぐらの木を争い 庭に春が訪れ、蝶は花を守護するかのよう
東の城門の所には空き地がある 誰がかの邵平に倣って瓜を種えるだろう

下第寓居崇聖寺 許渾

懷玉泣京華

舊山歸路餘

靜依禪客院

幽學野人家

林晚鳥爭樹

園春蝶護花

東門有閑地

誰種邵平瓜

下第して崇聖寺に寓居す

許渾

玉を懷いて 京華に泣く

旧山 歸路餘かなり

静は禅客の院に依り

幽は野人の家を学ぶ

林は晩れて 鳥は樹を争い

園は春にして 蝶は花を護る

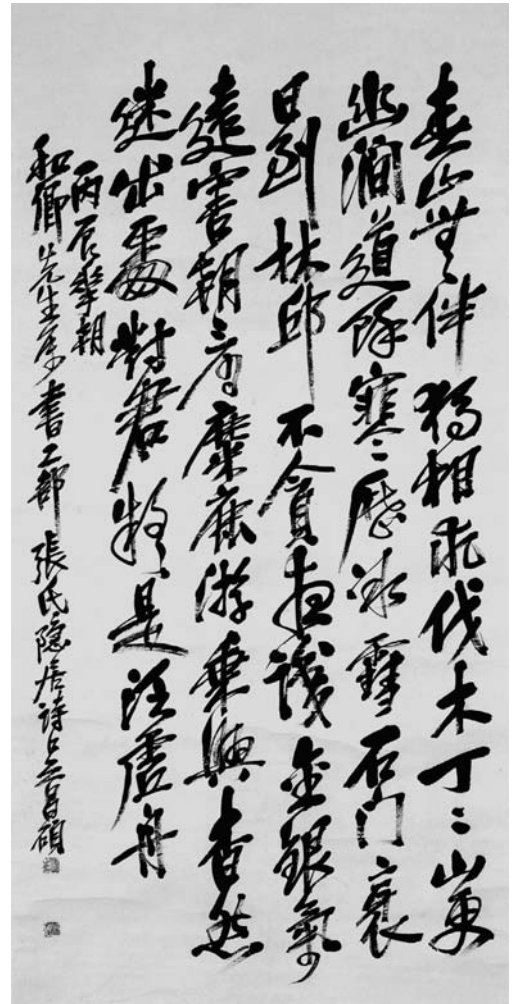
東門に閑地有り

誰か邵平の瓜を種えん



潤道の余寒

西 墨濤先生臨書



和卿先生属し、工部の張氏隱居詩を書す、吳昌碩

（丙辰華朝）

（丙辰華朝）

春山無伴獨相求 春山 伴無く 独り相い求む
伐木丁丁山更幽 伐木 丁々として 山更に幽なり
潤道餘寒歷冰雪 潤道の余寒 氷雪を歴て
石門斜日到林邱 石門の斜日 林邱に到る
不貪夜識金銀氣 貪らずして 夜に金銀の氣を識り
遠害朝看麋鹿游 害より遠ざかりて 朝に麋鹿の游ぶを見る
乘興杳然迷出處 興に乘じ杳然として 出處に迷う
對君疑是泛虛舟 君に對すれば 疑うらくは是れ虚舟を泛ぶるか

清 吳昌碩・杜甫七律行書幅

吳昌碩は清朝の道光二十四年に浙江省安吉県に生まれ、中華民国一六年に上海で没した。（一八四四〜一九二七・享年八十四歳）名は俊、長じて俊卿といい、字は昌碩、倉碩・蒼石・缶廬・苦鐵・老蒼などと号した。

清末から中華民国の初期は大動乱の時代で、十七歳の時に太平天国革命の争乱が郷里に及び、一家は離散した。彼は難を逃れてひとり湖北省・安徽省などを五年間流亡した。二十一歳の時にようやく故郷にたどりつき、年老いた父と再会し、一緒に百姓をして生計をたてていた。

吳昌碩は、若いときから仕官の道にはまったく興味を示さず、ひたすら文学、芸術に打ち込んでいた。二十九歳の時故郷を離れ、杭州・蘇州・上海と遊歴し、文学を愈々に進め、書を楊岷に、画を任頤に学んだ。一九〇四年に金石書画の研究団体として西泠印社が設立され、彼は推されて初代社長に就任した。久しく蘇州に住み、晩年には上海に定住し、文墨活動に励んだ。篆刻は十代から始め、書は中年以降晩年まで石鼓文の臨摹に没頭したが、王鐸や米元章を習ったといわれる行草書にも篆書の用筆法をとり入れた独自の直線的なスタイルを作り上げていった。この行書幅は吳昌碩七十三歳の作。

（春濤）

《倣書参考》

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

暮年伴 福相求 伐木丁 山更
幽閑道 既寒 歷冰霜

晨雨過青山 漠漠寒烟織 不見秣陵城 坐愛秋江色
秣陵佳處 愛秋江色

晨雨過青山

漠漠寒烟織

不見秣陵城

坐愛秋江色

(王士禛)

青山に明け方雨すぎて、つめたいもやがたちこめ、目ざす秣陵の町もさだかに見えないが、この江辺の秋色はこよなくよい。秣陵は今の南京。

11月25日正午必着

教育部毛筆

学生
生物者

雨宮春聲先生書

せいぶつがくしゃ
生物学者

中学一年

黄
河文明

菅井松雲先生書

こうがふんめい
黄河文明

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



むしなくさと里

小学五年

藤井良泰先生書



しょうねんこころざし
少年の志

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着



細谷春誠先生書

ほ し そら 空

小学三年



榎戸春龍先生書

バラ の はな 花

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

み ち 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

だ ん ご 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

かぎを
かけないで
外
出するの
は不用心だ

小学五年

北の山は早くも冬の
足音が近づいている

小学六年

山頂から見る美しい
晩景に心をうたれる

中学

月のおりなす光と影は闇
にとけ静かな夜を作る

一般(級位)

鹿の音に秋の
夕風はみどりを
染める

一般(段位)

鹿の音に秋をしるかな 高砂の 尾上の松は みどりなれども (涼)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

に	ぼ ^う
	う
と	し
ば	か ^が
さ	
れ	か
た	せ ^ぎ

幼 年

さ	木
る	の
の	み
お	を
や	た
こ	べ
	る

小学一年

の	こ
葉	う
が	え
ま	ん
い	に
ち	
る	木

小学二年

日	け
本	わ
ア	し
ル	い
プ	山
ス	な
	み

小学三年

る	冷
タ	たい
ぐ	風
れ	が
の	ふ
公	き
え	ぬ
ん	け

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

わがやどのやへ山吹は
 一えだにちりのこらなむ
 春のかたみに
 (読人しらず)



岩本景楓先生書

わがやどのやへ山吹は一えだにちりのこらなむ春のかたみに
 可登能通耳知能可多耳
 (読人しらず)